

営農ウィークリーNEWS

発信続けて13年

祝

700号達成!



経済部営農販売課が、2010年9月から営農活動に役立つ情報として、毎週1回、情報発信してきた「営農ウィークリーNEWS」が、発信し続けて13年、ついに発行700号を迎えました。

営農ウィークリーNEWSは、身近な情報をジャンルにとらわれない形で、課の職員が当番制で実施してきました。

多様化する組合員の皆様の要望に迅速に対応するため、毎週

火曜日に紙面により各支店へ配信するほか、当JAのホームページにも掲載しています。病害虫発生などの緊急的な情報発行は、「営農ウィークリーNEWS」号外としても発信してきました。

最近では、今年度、管内の水稲の晩生品種で発生が初確認された「イネカメムシ」の情報を号外として発行しました。

また、営農販売課では、会員登録制のメール情報配信サービスの「営農情報メンバーズメール」なども行っています。

今後も、ジャンルにとらわれない形で、当JA管内の様々な情報を発信し続けていきます。

TAC information

水稲用一発型肥料で実証試験を実施中



↑ 開発中の肥料

営農販売課とJA全農、JA全農京都が、2022年から系統メーカーと新たに開発中の水稲一発型肥料の実証試験を継続して行っています。

2022年に肥料が高騰し、低コスト化と省力化を図る目的で実証試験を行っています。

2年間の調査結果では、従来の水稲用一発型肥料と比較しても、問題なく終わっています。

供試肥料は、有機質原料を配合した水稲の肥効調節型肥料で稲の生育に及ぼす影響などを調査します。

今年は、向島支店管内で高温耐性品種「にこまる」と「ヒノヒカリ」の2品種で実証試験を行い、2品種の生育を調査し、普及を目指します。



ホームページ

★トマトキバガに注意（トラツツへの誘殺確認）★

トマト等を食害する「トマトキバガ」は、府内のフェロモントラツツで昨年9月に初めて誘殺を確認しました。

本年3月に設置したフェロモントラツツにおいて、4月3日に府北部および南部で各1頭の誘殺を確認しました。

今後、本虫によりトマト等で被害が発生するおそれがありますので、施設では防虫ネットで侵入を防ぐとともに、発生が疑われる場合は最寄りの農業改良普及センターまたは病害虫防除所に連絡してください。

なお、発生を確認した場合、トマトおよびミニトマトでは薬剤防除を行うってください（表）。

※トマトキバガに関する詳細は、当所発表の令和5年10月12日付け「発生予察特報第1号」を参照してください。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyuvu2023_01.pdf



写真1 フェロモントラツツに誘殺された雄成虫（長さ5mm程度）



写真2・ 終齢幼虫
（体長8mm程度。背面に黒色の横帯がある）



写真3・ トマト葉の被害



写真4・ トマト果実の被害

*写真2～4の出版：下記の農林水産省Webサイトより抜粋して加工

「植物防疫所病害虫情報 No.127 植物防疫所病害虫情報 No.127」

https://www.maff.go.jp/dps/ruidance/pestinfo/attach/pdf/pestinfo_127_1-3.pdf

表「トマト」、「ミニトマト」でトマトキバガに登録のある農薬（令和6年4月1日現在）

IRACコード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
5	チアゾチンSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
5	ラチアゾチンSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
6	ダリメニターG-SE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内（スパイク2回以内）
6	アゾメクトリン	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
6	アゾメクトリン（ミニトマトは登録なし）	500～1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
11A	エスバルプロDF	1,000倍	発生初期（但し、収穫前日まで）	—	散布	—
13	チソプロアゾフル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
22A	トルネードエースDF（ミニトマトは登録なし）	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
22B	アケセルフロアゾフル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
28	ヘネビ700	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内（但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内）
	ヘリマレーアSC	400株あたり25mL 液量：400株あたり10～20L（株あたり25～50mL）	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	4回以内（但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内）
	フリロソリザチン	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布	4回以内（但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内）
30	ヨーバルフロアフル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内（但し、灌注は1回以内、散布は3回以内）
	グレイブフロアフル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
UN	フレオフロアフル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内

* 殺虫剤コード。有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号で、本コードが異なる薬剤を使用すると、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

注）農薬の使用に当たっては、ラベルやインターネット等で最新の使用方法や注意事項を確認してください。
また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。

発見されたら、 JAまでご連絡下さい！